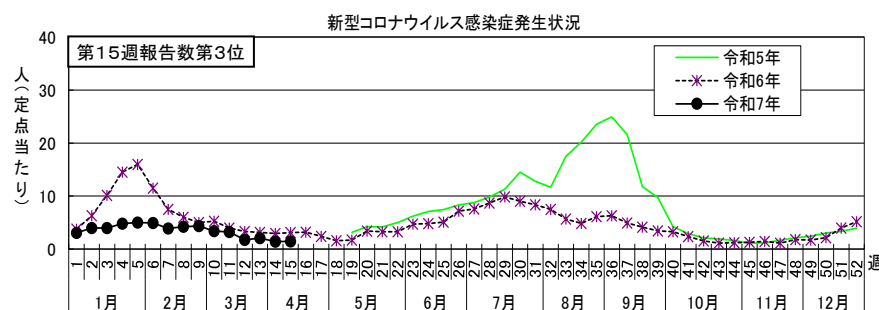
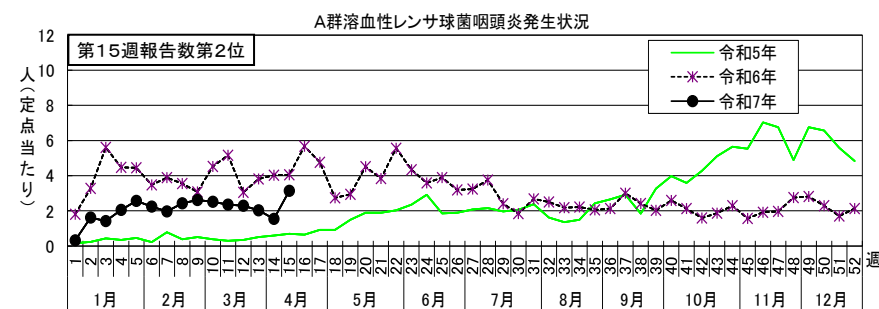
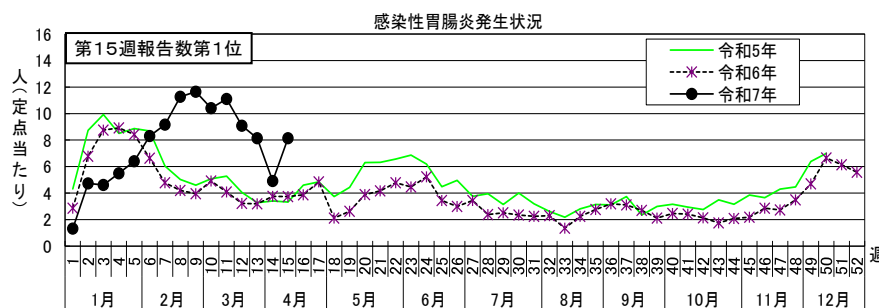


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和7年4月7日（月）～令和7年4月13日（日）〔令和7年第15週〕の感染症発生状況

第15週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3）新型コロナウイルス感染症でした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.14人と前週（4.92人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.14人と前週（1.54人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は1.43人と前週（1.41人）から横ばいです。

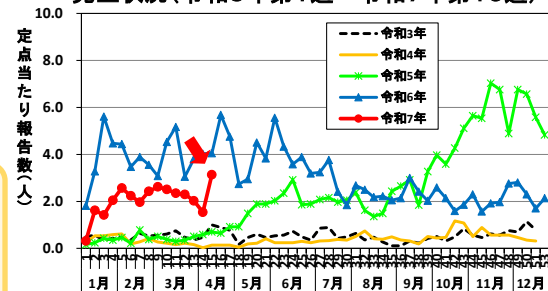


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎～突然の高熱に要注意！～

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、例年冬季若しくは春から初夏にかけて報告数が増加する感染症です。川崎市においては、令和7年第10週（3月3日～9日）以降、報告数の減少が続いていましたが、第15週（4月7日～13日）に定点当たり患者報告数が3.14人と増加しました。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、突然の38℃以上の発熱や咽頭痛、発しん等の症状がみられます。通常は1週間以内に改善し、予後は良好な場合がほとんどですが、まれに急性糸球体腎炎等の合併症を引き起こします。早期の適切な抗菌薬治療により合併症を防ぐことができるため、急な高熱等の症状が現れた場合は、早めに医療機関に相談しましょう。

川崎市におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生状況（令和3年第1週～令和7年第15週）



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは？

病原体：A群溶血性レンサ球菌

感染経路：接触感染、飛沫感染

潜伏期間：2～5日間

主な症状：突然の発熱、全身倦怠感、咽頭痛、莓舌（イチゴのように赤くポツポツした状態）、体や手足に小さく紅い点状発疹

合併症：急性糸球体腎炎、リウマチ熱等

予防対策：患者との濃厚接触を避ける、手洗い等



合併症に御注意ください！

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、リウマチ熱、急性糸球体腎炎等の合併症を引き起こすことがあります。合併症の予防のため、発症初期から適切に抗菌薬を使用し、症状改善後も医師の指示に従って服用することが大切です。